

次世代の責任と使命

小林 孝一郎

「人の役に立ちたい」「命を守りたい」医師として二十二年間、諸先輩の背中を追いかけ地域医療に没頭してきました。世界的流行となった新型コロナウイルス感染症では、全国の先生方が昼夜を問わず、わが身を顧みず、感染者の対応にあたられました。かつて経験したことのない困難から私たちは、命を守るために必要な医療提供体制の構築と地域医療の重要性をあらためて強く認識することとなりました。

私は、十三年前、医療現場の課題を政治から解決したいと立ち上がりました。「子どもを虐待から守る条例の制定」「ドクターヘリ日中帯運動時間の延長」「受動喫煙防止のための県民運動の展開」など、医師と県議の立場から、お一人おひとりの声をもとに奮闘した十一年間でした。地域の医療を守るため、この歩みをさらに前へ進めるべく、松山正春岡山県医師会長のご指導のもと、小さな繋がりを頼りに自らの足で全国各地を回り、次代を担う医療関係者と医療の未来について、対話を重ねてきました。

昨今の医療は財政論に押され、過度な削減と抑制を押しつけられています。物価や人件費の高騰、人材の不足と流出、医療の地域格差などの課題が山積する中、医療の収入は診療報酬という公定価格のみであり、この中で医療機器の購入や更新、病院の維持管理、人件費など全てを賄わなければなりません。医療は地域にとって欠かすことのできない社会的共通資本であります。過度な効率化や抑制により、医療現場がさらに疲弊することがないよう、過不足のない十分な財源確保を求めてまいります。私は、医療現場での臨床経験と地方議会での政治経験を生かし、命と健康に直結する分野の政策を情報通信技術を活用し推進するとともに、誰もが安心して医療にかかることができるよう国民皆保険制度の堅持に努めてまいります。

小林孝一郎、四十六歳。お陰さまで、これまで多くの方にお支え頂き、活動を続けることができました。これからも医療現場を支えて頂いている諸先輩方と医療の未来を描き、次世代の責任と使命を果たしてまいります。引き続き、温かいご指導とご鞭撻を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

令和五年 十一月

